

農政事情
キーマンに聞く

農業・農村の新たな位置づけ (2)

衆議院議員 務台 俊介



「親を連れてきたり、10年後再訪したり、成功した人はふるさと納税で、第二のふるさと川場村に住民税を納めるなど、いいこと尽くめなのです」

「横濱市が昭和村に建てた施設で、中越大地震のとき、新潟県の被災者を受け入れお風呂を提供していました。稲刈りをしてもらい、これは君たちの

「ですから、農山村は農山村単独で生きていくことは無理ですから、都会との交流をいろんな形でやったほうがいいと思います。そういう仕組みを作ると自然に農山村は元気になりますよ。もちろん都会のメリットも大きい」

「子ども農山漁村交流も、先生にはあまり負担をかけられない」というので、先生に負担をかけないシステムを作るべきで、地元自治

「横濱市と群馬県昭和村、東京都世田谷区と群馬県川場村の交流は有名

「中山間地域は微妙ですね。そこでは、完全に手間が掛かりコスト割れします。ここはひとつ、棚田で作った米は文化遺産であると考え、例えば、「姨捨(おばすて)の棚田、小川村の棚田、横根田んぼの棚田で子ども達が来て作った米ですよ」という付加価値を付けた棚田米としてブランド化すれば、売れると思います。それもター

「体、JAが汗をかかなくて。各地域にはそのようなことが好きな人がたくさんいますから、それを掘り起こすべきです」

「再生可能エネルギー電気発電に関する法律案を出しました。復元できない耕作放棄地を対象に、主として太陽光発電の用地として集団化し活用していくことを提案しましたが、廃案になりました。自民党では、すべての耕作放棄地を復元し使うという政策が色濃く出ているようですが…」

「『そうですか、民主党の法案は随分と具体的だったのですね。根回しがあつたのでしょうか』

「穀物の代わりにエネルギーを生むような農地があつてもいいのではという気もしますが。」

「農地として全くどうしようもない場合は、それも一つの手法であり、現金収入にもなるわけで、否定する話ではありません」

「TPPにおいて、農業分野では重要5品目の関税撤廃など様々な問題が注視されていますが、地元の反応は

「地元の農業関係者の多くはTPPには全面反対で、交渉参加ですら裏切りだと訴えておられます。私としては、聖域をきちんと守れないのであれ

「ば、決議にもあるように、脱退も辞さないことで決断すべきだと思います。しかし、交渉はこれからですから、交渉で国益がきちんと確保されるよう応援しなければなりません。後ろから鉄砲を撃つていけば交渉になりませんか。TPPの良し悪しは、それが地域社会にとってプラスかマイナスか、という観点で見るべきで、長期的な話なのでしっかりと考えていかなければならないと思います。」

「負担をゼロにはできないのでしょり、第2次・3次産業とは違う、地域を保全するという位置づけで農業を捉え直し、その位置づけを変える中で農業水利事業は農家の負担で行うべきものかどうかを考えるべきではないか」

「農家以外の人も含めた地域の住民が、その地域環境を享受することに、何で税金を投入するのか、という住民が多くなっている。そのくせ、景観を損なうので直すなど言ってみたりもします。つまり、農家の人として

「『どのくらいの負担ですか』

「『圃場整備ですと、10a当たり1300~1400万円、その10%で13~14万円です。15年間償還で約1万円を払います。都会の感覚ではそれほど高くはないかもしれませんが、そこでできる米の収益性から考えると高い負担になります。』

「『個人所有の田んぼといつとろが、財務省的にはネックになるのかなあ。農業水利の方はまだいいかもしれせんが』

「『田んぼも同じです。農地は個人の資産なのか。農地法により自由な売買はできませんし、農家にしか売れない、農地転用ができないなど』

「『極端な話ですが、農地は公有地になりませんか』

「『最後に財務省が言ってくるのは、個人所有の田んぼで分けて、分けたいものを個人財産しながら公費とは何だということになります。理屈上の整合性をとれば、農地は公有地化し基礎整備を行い、やる気のある人に安く貸す、というような仕組みが本来あつてしかるべきものでした』

「これだけ耕作放棄地が増え、管理能力の状態は、歴史的転換点のある種の軋みかもしれません」

「土地改良区の組合員は農家しかたたくたい。」

「『自分なりに問題意識のある分野からどんどん広げていきたいと思つていくと、農地のあり方までいきつくよ。すべてが繋がっている気がします。一点突破、全面展開で頑張ります』

「最後に今後の抱負を。」

「私はまだ1期目なので力不足ですが、齢は56ですので、これまでの蓄積を踏まえ、政治的に力が持てるように、地元の支持基盤を強化していきたい。農業には土づくりが重要であるのと同じことです。まずは、仕事の実績を上げていきたいと思つています」

「お忙しいところありがとうございます。今後の活躍を期待申し上げます。」

「お忙しいところありがとうございます。今後の活躍を期待申し上げます。」

「お忙しいところありがとうございます。今後の活躍を期待申し上げます。」